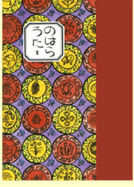


星つむぎの村本の森だより No.21

星つむぎの村は、「星を介して人と人をつなぎ、ともに幸せを作ろう」をミッションにプラネタリウム、星空観望会、星や宇宙に関するワークショップなどを展開している団体です。

★ぼく・わたしの絵本

「のはらうた」 くだなおこ:作 童話屋



『ひとはみなじぶんの「のはら」をこころのおくにしまっているのではないかしら』そう話す工藤直子さんが、野原の生き物や風や星などの眩きをまとめた詩集。ほんわか優しい気持ちになります。

「ふわふわ ふんわり おやすみなさい」

鈴木真実:作 講談社



夜になったら眠らないとだめ？早く寝かせなきゃ…。そんな時に開きたい絵本です。不思議と心がゆるんできて、ふわふわやさしい気持ちになってきます。ゆっくりゆっくりおやすみなさい。

★ティーンエイジの君へ

「レディオワン」 斉藤倫:作 クリハラタカシ:画 光村図書



犬はかなしみの色が分かる生きものだ。犬は人の心に寄り添いそう生きものだ。ジョンがラジオDJであることは飼主も知らない。斉藤倫さんの本は、いつもあたたかい。子ども目線であたたかい。

「6か国転校生 ナージャの発見」

キリーロバ・ナージャ:著 集英社



世界には、いろんな先生がいる。6つの国4つの言葉で学んだナージャが言います。「正解はない、違いがあるだけ」と。4月、新生活を始めた君に読んでほしい。私たちだって、いろいろでいい。

★トピックス。。。

春は、新しいことがスタートしたり、花が咲いたりして、わくわくする反面、寂しい気持ちや、もやもやする気持ちも多い季節かもしれません。そんなとき、誰の上にも変わらず空にある星を見上げることで、ほっとすることもあるでしょう。北の空の北斗七星も高く昇る季節。そこからたどる北極星も、よりどころの一つになりますように。

次号の発行は7月1日です。

星つむぎの村の活動はホームページやYouTubeでもご覧いただけます。

・星つむぎの村HP・<https://hoshitsumugi.org/>

★パパ・ママの本

「透明人間 Invisible Mom」

山本美里:写真・文 タバブックス



「医療的ケア児」と呼ばれる重度の障害を持つ息子さんの母親が撮った写真とそこに添えられた言葉が、心を揺さぶります。息子さんの学校への「付き添い」の現状が見えてきます。障がいがある事が問題なのではなく、障がいがある人はこういう生き方を！という選択肢を与えない、分けようとする社会に問題があるのではないかと。筆者は怒り、辛さ、ときどき笑いを、写真という手段を使って表現しています。障がいがある子の親だけでなくいろんな立場の人に見て欲しい1冊です。

★みんな・みんな生きている！

「どうぶつさいばん ライオンのしごと」

竹田津美:作 あべ弘士:絵 偕成社



母親を殺したライオンを子どもヌーが訴え、裁判が始まった。ライオンは言う。「だってたべてくれーとあのヌーが言ったんだもの」。動物たちの証言で明らかになったことは大自然の摂理だった。

「たねがとぶ」

甲斐信枝:作 森田竜義:監修 福音館書店



たんぽぽの綿毛をふう〜と飛ばしたことがありますか。花は実を作り、それぞれのやり方で仲間を増やします。春にページを開いてみて。足元の小さな花たちに、笑顔でエールを贈りたくになります。



YouTube
QRコード

星つむぎの村の様々な活動
フライングプラネタリウムや
コンサートなど、
YouTube配信も
ご覧ください。



編集・発行

一般社団法人 星つむぎの村

〒409-1502

山梨県北杜市大泉町谷戸6587-2

☎0551-88-9027

✉ book@hoshitsumugi.org

HP <https://hoshitsumugi.org/>